

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】 ～ 日本一の高校をめざして ～

- 大阪を代表する公立高校として、日本中の高校のモデルとなり、府民から信頼される学校。
- 日本や国際社会で活躍する高い「志」を持ったリーダーを育成する学校。
- 全てにおいて「チーム天王寺」として組織的に一丸となって取り組む学校。

【生徒に育みたい力】

- 自由闊達・質実剛健・文武両道の校風を理解し、深い教養を身につけるだけでなく、行事・部活動・探究活動等に積極的に取り組む意欲。(意欲)
- 目標に向かって全力を尽くすために必要な思考力・判断力・表現力と、それらに基づく行動力。(行動力)
- 世界市民として多様性を理解し協働性を備え主体的に社会貢献しようとする高い志。(志)
- 様々な個性の存在を理解するとともに尊重し合う優しさ。(優しさ)
- これからの社会を創り出していく本校生が、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓ひらいていくために求められる資質・能力(「知識・技能」に加え「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を含む学力)

2 中期的目標

1 学力の育成

- (1) 天高スタンダードに基づいた高い学力、および中教審答申(H28.12.21)で確認された「知識・技能」に加え「思考力・判断力・表現力」と「主体性・様性・協働性」を含んだ「確かな学力」の定着に取り組むとともに、中教審答申に示された新しい入試制度への対応を研究する。

ア 授業アンケートにおいてアンケート項目の全体平均を平成31年度2回目には3.45以上をめざす(H28年度は4点満点で3.45)。

イ 文武両道をさらに追求する(部加入率95%以上を維持)。学校教育自己診断においても部活動との両立ができている生徒の割合を向上させ、(平成28年度70%)平成28年度に達成した70%以上を平成31年度まで維持する。

ウ グループ活動、ペアワーク、ディベート、プレゼンテーションなど、アクティブラーニング型の指導方法の全教科導入が平成28年度に完了し、「確かな学力」を生徒に身につけさせる下地ができた。平成31年度まで、アクティブラーニングに工夫を重ね、より洗練された指導法を開発し共有する。

エ 平成32年度入試から、大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の成績に加え、『小論文、面接、集団討論、プレゼンテーション、調査書、活動報告書、大学入学希望理由書や学修計画書、資格・検定試験などの成績、各種大会等での活動や顕彰の記録、その他受検者のこれまでの努力を証明する資料』が大学入学希望者選抜の材料になることに対応し、情報収集と研究を行い、日々の授業に反映させる。

オ 中教審答申には、平成32年度以降の入試の多面的な評価の方法として「パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」が例示され、達成度の基準を示す「ルーブリック」が紹介されている。本校では、「ルーブリック」の全教科導入が平成28年度に完了し、多面的な評価を実施する下地ができた。平成31年度まで、「パフォーマンス評価」に工夫を重ね、より洗練された評価法を開発し共有する。

カ TOEFLの授業や国際教育の機会を通じて4技能を備えた英語力を身に付けさせる。

- (2) 学習指導の充実に取り組む

ア 天高育成プログラムを基に、各教科で3年間を見通した学力育成プログラムを展開する。また、各教科の自主教材のさらなる充実を図る。

イ 研究授業、公開授業を充実(教科の枠を超えた授業研究の実施)し、互いに見学する回数を1人平均5回以上にする(平成28年度は6.1回)

ウ 4技能を備えた英語力を生徒に身に付けさせるため、TOEFLを活用した指導法を確立し、全英語科教員が担当できる体制を整備する。

エ 「パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」、達成度の基準を示す「ルーブリック」など、さらに洗練された評価法を開発し共有する。

- (3) 探究活動の充実、自学自習の習慣づけ

ア 平成29年度から平成31年度までの本校の最大の挑戦は、日本でも極めて少ない文理学科各学年360人全員が課題研究に取り組むという内容の「カリキュラム・マネジメント」の実現である。従来の理系および文系の課題研究に取り組む160人に加え、ビッグデータ研究班約100人とデジタルコンテンツ制作班約100人を新たに立ち上げ、全教科教員で支援する体制を実現する。これは平成34年度から始まる新学習指導要領の新科目「理数探究」の日本中のモデルとなる取組となる。

イ 桃陰セミナーの活用を一層推奨する。 → 土曜日は学校で自学自習の習慣づけ

ウ 部学習日を充実させる。 → 同じクラブ内での相互指導と学習

2 グローバル社会に貢献できる人材の育成

- (1) グローバルリーダーの育成

ア 英語圏との交流、アジア各国各地域との交流、国内での国際活動を通して国際教育を充実させ、全ての生徒に国際感覚を身に付けさせる。

イ アジア各国との交流を発展させ、①アジア理解とアジア研究、②アジアの若者との英語による交流、③文系の国際研究活動の機会として充実させる。

ウ 科学に秀でた人材の育成をめざし、SSHの重点枠を活用して大阪サイエンスデイや近畿サイエンスデイ等を運営する。

- (2) 生徒理解の促進と安心な学校づくりのための体制の確立をめざす。

ア 教育相談委員会の充実をはかり、担任、学年団、カウンセラーと連携し、様々な原因でつまずきを感じる生徒を支援する。

イ 平成19年に学校教育法が改正され、「高校においても障がいのある生徒に対し、障がいによる学習上または生活上の困難を克服するための教育を行う」と規定されたことを踏まえ、天王寺高校としての生徒への支援体制整備とインクルーシブ教育推進を行う。平成27年6月に改定を加えた「教育相談活動確認事項」を効果的に運用するとともに継続的に改訂を加えていく。発達障がいに関する共通理解を深める。

- (3) 京都大学・大阪大学・大阪教育大学・大阪工業大学との連携協定に基づきGLHSの事務局校として各大学との連携を進める。

3 中堅、若手教員の資質の向上

ア 新規採用教員に対して実施している「桃陰塾」を継続発展させて教科指導力、生徒指導力の育成をはかる。

イ 若手教員の教科指導力と生徒指導力を育成する。中堅教員に学校運営の視点を身に付けさせる。

ウ 予備校等外部教育機関のベテラン教員や広報担当者を招聘し、授業展開に主眼を置いた研修会を開催する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年10月実施分]	学校協議会からの意見
<p>保護者による回答 有効回答数 878/1077 (1年 319・2年 267・3年 292 回収率 82%) 「非常にそう思う」と「そう思う」という肯定的な意見が 85%を超える項目が全 24 項目中 17 項目で昨年度と同じであるが、19 項目で+1~+5 上昇している。また、12 項目(昨年 7 項目)については 90%以上の肯定的回答を得ており、中でも「部活動が活発である」95%、「他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」94%と高く、本校の教育方針が支持されているものと思われる。「子どもの心身の健康について気軽に先生に相談できる。」は 77%から 83%に+5 増えており、本校の教育相談体制に信頼を頂いていると思われる。さらに回収率が 80%を超えており、本校の教育に対する関心の高さが伺える。</p> <p>生徒による回答 有効回答数 1050/1077 (1年 358・2年 348・3年 343 回収率 97%) 「学校での友人関係はうまくいっている」95%、「部活動に参加している」100%、その他肯定的な回答が 85%を超える項目が全 37 項目中 21 項目あり昨年度同様、大多数の生徒が本校での学校生活に満足しているものと思われる。「清掃活動が行き届いている」が-5 で 48%、「課題研究は有意義である」が-7 で 79%と下がっている。清掃活動については昨年度から保健部を中心に力を入れているが今まで以上に教員による監督を強化するなど対策を施していきたい。課題研究については今年度から2年生 360名全員での取り組みが始まり、試行錯誤しながら進行していることが影響していると思われる。来年度に向けて、「課題研究委員会」を立ち上げより良いものとなるよう検討中である。</p> <p>教員による回答 有効回答数 64/67 (回収率 96%) 昨年度より 24 項目において肯定的な回答が増えており、中でも「適性・能力に応じた人事や校務分掌分担がなされている」は+10 で 71%の肯定的な回答を得た。「清掃活動」についても+14 で 66%と上昇し保健部を中心とした取り組みが評価されたが生徒の清掃活動に対する肯定的評価は減少しており、このギャップを埋める更なる取り組みが必要である。また、「災害時等の役割分担・体制が明確化されている」も+11 で 95%と上昇し、周知が進んでいると思われる。</p>	<p>第1回 (6/24) ・行事等の学校の取組みの多さに驚いている。時間外勤務など教員の負担を危惧する。 ・学校のイベントへの参加が学校関係者だけにならないように近隣地域などにもう少し発信することも必要ではないか。 ・天王寺高校のよき伝統を新たに着任される教員に引き継いでほしい。また、全ての生徒が「高校が天王寺高校でよかった」と思える学校であり続けてほしい。</p> <p>第2回 (11/18) ・多くの行事・イベントがあるなかで生徒の金銭的負担が増え、財政的支援の有無による格差が生じていないか。同窓会など学校支援組織との連携を深め、生徒への予算の還元方法を考えてほしい。 ・塾、予備校の利用率が上昇していることについて、学校の授業が十分に入試改革にも対応していることや学校の授業の大切さを、生徒とともに保護者にも伝える必要がある。 ・校外行事に参加して、生徒が賢いとともに教員の指導が丁寧で細かいと感じた。しかしながら、リーダーを養成する観点からはスケールが少し小さいのではないか。生徒自身に考えさせる幅を持たせるなど、安全性に配慮しながらも改善を期待する。 ・トイレの臭いなど設備老朽化は他校でも問題になっているが、学校の抱える問題を生徒たちに解決を考えさせてはどうか。主体的に問題に取り組み自ら解決策を探る教育をどう提示するかがこれからは求められる。</p> <p>第3回 (1/27) ・公費による災害備蓄に限界があるなかで、災害発生時には数千人が天王寺高校に避難してくることも考えられる。暖房対策も必要だ。地域からの訓練受け入れも検討すべきではないか。 ・防災訓練と同時に不審者対策や防犯訓練も怠ってはならない。また、SNSなどネット上の個人情報の扱いについて、生徒たちの意識は非常に甘い。「自分が加害者にも被害者にもなりうる」という意識に基づいた学習機会の提供を引き続き行ってほしい。学校の危機管理の観点から、できうる対策は万全にしてほしい。 ・教育活動の一環としての清掃活動は良いが、将来的には設備の更新を考えてほしい。生徒に学校のことを考えさせ、自分たちで改善・解決させる姿勢を養うことも大切。 ・ノークラブデーの取組みにおいて平日を部活動の休みにしている場合、保護者には伝わりにくい。周知の対策とともに、取組みの徹底をお願いする。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の育成	(1)天高スタンダードの実施と検証を行い各教科ごとの到達度を高める。中教審答申に示された「確かな学力」を生徒に身に付けさせる。また、新しい入試制度を研究する。	<p>(1) ア・教科運営委員会で天高スタンダードを点検、整備していく。授業アンケートの結果を高いレベルで維持する。</p> <p>イ・文武両道をさらに追求する。学校教育自己診断においても部活動との両立ができている生徒の割合を向上させる。</p> <p>ウ・グループ活動、ペアワーク、ディベート、プレゼンテーションなど、アクティブラーニング型の指導方法を国語、社会、数学、理科、英語の各教科で発展させる。(保体、芸術、家庭、情報の実技教科はすでにアクティブラーニング教科である)</p> <p>エ・新しい入試制度に関係する研修会や説明会に参加し、校内での情報共有を行い、可能な範囲で日々の授業等に反映させる。</p> <p>オ・パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」、達成度の基準を示す「ルーブリック」など、多面的な評価の方法を徐々に生徒に示す。</p> <p>カ. 4技能を備えた英語力を身に付けさせる。</p> <p>キ. 科学オリンピック対策講座を開催する。科学オリンピックへの参加者 120名以上を維持する。</p>	<p>(1) ア・天高スタンダードの改訂を継続する。授業アンケートの2回目全体平均 3.45 を維持する。(H28年度 3.45) イ・部加入率 95%以上を維持 (H28年度 100%)。学校教育自己診断において部活動との両立ができていた生徒 70%を維持する (H28年度 70%) ウ・国語、社会、数学、理科、英語の各教科で少なくとも1回以上、平成28年度に実施したアクティブラーニング型の授業の発展形の展開を試みる。(全教科1回以上) エ. 新しい入試制度に関係する研修会や説明会での情報を職員会議で共有する。(1回以上) オ. 平成28年度に実施した「ルーブリック評価」を改良する。(全教科で実施) カ. TOEFLiBT CHALLENGE 80点以上 5人、60点以上 15人。 キ. 科学オリンピック対策講座開催。科学オリンピック参加者 150名以上を維持し、2名以上の受賞者を出す。 H25 110名 内、受賞 2 H26 149名 内、受賞 5 H27 121名 内、受賞 5 H28 232名 内、受賞 7 H29 263名 内、受賞 12</p>	<p>(1) ア 全体平均 1回目 3.46 2回目 3.51 (○) イ 部加入率 100% (学校教育自己診断) 部活動との両立ができていた 71% (○) ウ 各教科でのアクティブラーニング導入 100% 各教員のアクティブラーニング導入 98% (○) エ 職員会議において、進路指導主事から適宜情報提供を行うとともに、外部講師を招いて教員研修実施。(○) オ 各教科でのルーブリック活用 100% 各教員のルーブリック活用 80% (○) カ 80点以上 3人 60点以上 12人 [受検 64名] (△) キ 科学オリンピック参加 263名。受賞者 12名。(○) H25 110名 内、受賞 2 H26 149名 内、受賞 5 H27 121名 内、受賞 5 H28 232名 内、受賞 7 H29 263名 内、受賞 12</p>

府立天王寺高等学校

<p>1 学力の育成</p>	<p>(2)学習指導の充実に取り組む。</p> <p>(3)探究活動の充実、自学自習の習慣づけ</p>	<p>(2) ア・研究授業、公開授業の充実 イ・技能を備えた英語力を生徒に身に着けさせる。 ウ・パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」、達成度の基準を示す「ルーブリック」など多面的な評価法の研究と実践を継続する。</p> <p>(3) ア・「創知（総）」「創知」における全教科教員による新たな指導体制を確立する。従来の文系および理系課題研究に加え、ビッグデータ活用班、デジタルコンテンツ制作班の活動を効果的に展開する。 研究倫理の指導を盛り込む。</p> <p>イ・桃陰セミナー、部学習日を充実させる（土曜日を活用した自習活動）。土曜日の半日を「部学習日」として部単位で自学自習を継続し推奨する。</p> <p>ウ・全学年、夏期休業中に勉強合宿を実施し、さらなる学習意欲を増加させるとともに自己の将来を展望させる。</p> <p>エ. 大学進学実績の維持</p>	<p>(2) ア・授業見学（5回以上） イ・TOEFLに関する指導法の確立 ウ・多面的な評価に関する研修や勉強会に参加する（1回以上）。</p> <p>(3) ア. 「創知（総）」「創知」を指導する教員を25名以上配置する講座編成を行う。2年生徒360名が課題研究の成果物を完成する。</p> <p>イ・桃陰セミナー参加者数の維持。1日平均250名以上(H28年度1日平均274名)を維持する。 ・部学習日の参加者数の総計500名以上をめざす。</p> <p>ウ・全学年の勉強合宿を例年通り150名超の規模で開催する。 H28 1年174名 2年223名 3年202名</p> <p>エ. センターテスト5教科受検者数学年の95%以上を維持。(H28年入試95%) 国公立大学合格者現浪合わせて270人以上。 (H28年入試(264)人)</p>	<p>(2) ア 授業見学数 平均5.2回 (○) イ TOEFLに関する指導とともに4技能の指導の充実が進んでおり、他校からの見学もあった。(○) ウ SSH近畿圏8校によるルーブリック研究会にSSH主担者が参加し、研究協議を行った。(○)</p> <p>(3) ア 2年生文理学科360名全員による課題研究に対し、教員28名による全クラス同時展開の「創知」を実施。ビッグデータ、コンテンツ分野を含む約140班が課題研究に現在取り組み、校内における発表会を実施した。(○)</p> <p>イ 桃陰セミナー参加者数1日平均260名 部学習日参加者数637名 (○)</p> <p>ウ 勉強合宿参加者数 (△) H29 1年184名 2年109名 3年153名</p> <p>エ センターテスト5教科受検者数94% 国公立大学合格者現浪合わせて323人 (○)</p>
<p>2 グローバル社会に貢献できる人材の育成</p>	<p>(1)グローバルリーダーの育成</p> <p>(2)生徒理解の促進と安心な学校作りのための体制の促進</p> <p>(3) 京都大学・大阪大学との連携</p>	<p>(1) ア・海外研修や国際行事など、国際感覚を身に着ける機会を充実させる。本校で初めての海外研修旅行（台湾）を成功させる。派遣型研修として、ケンブリッジ研修、オーストラリア研修、台湾研修を実施する。受入型交流として、国立武陵高級中学（4月）、台北市立第一女子（5月）、イギリスグラマースクール（7月）、Road To GL（国内イングリッシュキャンプ8月）、オーストラリア・ホランドパーク高校（12月）、韓国慶南女子高校（1月）との交流を実施する。</p> <p>イ・国際教育活動において、交流相手校生徒との自由交流時間を最大限確保し、中身の濃いプログラムを確立する。</p> <p>ウ・SSHの重点枠を活用して大阪サイエンスデイや近畿サイエンスデイ等を運営する。</p> <p>エ・天高アカデメイアを継続実施する。</p> <p>(2) ア・支援コーディネーターの専門性を高め教育相談機能を充実させる。生徒情報の共有システムを確立する。 イ・改訂した「教育相談活動確認事項」を効果的に運用する。支援コーディネーターと養護教諭を中心にチームで対応する体制を確立する。</p> <p>(3) 京都大学、大阪大学との連携協定に基づき両大学と連携を維持する。</p>	<p>(1) ア・各行事の事後アンケートにおける満足度90%以上とする。</p> <p>イ・各行事における交流相手校生徒との自由交流時間の確保を検証する。</p> <p>ウ・大工大梅田キャンパスで実施する大阪サイエンスデイを成功させる。</p> <p>エ・天高アカデメイアの満足度80%以上を維持する。</p> <p>(2) ア・研修等に2回以上参加する。そのスキルを教員間で共有する。 イ・合理的配慮をおこなうためのノウハウと実践結果を積み上げていく。</p> <p>(3) 京大キャンパスガイド、阪大ツアー等を継続する</p>	<p>(1) ア 派遣型海外研修参加者数 ケンブリッジ研修3名、オーストラリア研修6名、台湾研修15名合計24名が参加。受入れ型交流として、台湾から武陵高級中学31名、台北市立第一女子高級中学47名、英国Townley Grammar School29名、ホランドパーク高校14名、韓国慶南女子高校10名との交流を実施した。Road To GLは今年度は外部講師による国内留学研修とした。学校教育自己診断におけるSSH、GL事業の満足度は90%であった。(○)</p> <p>イ 交流に際しては、本校各クラスから国際交流委員を募り、自由交流内容の企画運営を任せられた結果、自主的に工夫して豊かな交流を実現できた。(○)</p> <p>ウ 大工大での大阪サイエンスデイは約1500名の参加者を得て成功裡に終わった。より充実した研究発表大会開催に向け、次年度の内容を検討している。(○)</p> <p>エ 天高アカデメイアの満足度82% (○)</p> <p>(2) ア 支援コーディネーターが2回の教育相談関連研修に参加した。また、臨床心理士による思春期の子どものサポートについての職員研修兼PTA保護者研修を実施した。H29.12.4 (○)</p> <p>イ 合理的配慮の考え方を踏まえ、配慮を要する生徒の個別の教育支援計画・指導計画の実践を重ねた。(○)</p> <p>(3) 京都大学キャンパスガイド H29.11.5 (117名)、大阪大学ツアーH29.11.25 (124名)を実施した。(○)</p>
<p>3 中堅、若手教員の資質の向上</p>	<p>・若手教員の育成 ・中堅職員の教育力向上</p>	<p>ア. 桃陰塾（若手教員の勉強会）→首席を世話役として月1回自主的勉強会（先輩教員の講演会、ワークショップなど）の実施年間通して、若手教員間での授業研究を促進する。</p> <p>イ. 教科指導力の向上をめざして大学と連携し、大学の専門知識をもった教授等から指導を頂く機会を作る。</p> <p>ウ. 本校の文武両道の理解推進。天高育成プログラムの理解の増進。</p>	<p>ア・新採用の教員については相互の授業見学を1人5回以上行う。</p> <p>イ・新規採用者全員に公開研究授業と研究協議会を1回以上実施させる。</p> <p>ウ・学校行事に対する意識の改善。学校教育自己診断の結果、昨年度のマイナス項目を改善する。</p>	<p>ア 新採用の2人の教員は、相互の授業見学を10回以上行い、授業力を向上させた。(○)</p> <p>イ 公開授業と研究協議会をそれぞれ1回ずつ実施した。(○)</p> <p>ウ 学校行事の意義や運営についての議論を深め、意識の改善を図った。教職員学校教育自己診断で、「教育活動は…リーダーシップの養成に役立っている」98%、「教育目標を意識している」90%、「学校行事の多いことは本校の魅力」92%と昨年を上回る結果となった。(○)</p>